夕刊三重

発行所
夕刊三重新聞社
〒515-0821 三重県松阪市外五曲町15
☎ 代表 (0598) 21-6113
FAX (0598) 21-8500
☎ 編集直通 (0598) 21-6362
電子メール info@yukanmie.com
郵便振替口座 00810-9-13245
夕刊三重トラスト
☎ 代表 (0598) 21-9700
購読料
1カ月1700円、1部80円
©夕刊三重新聞社 2022

元気で躍進 地域経済

尾鍋組、三重大など優秀賞

環境賞 地盤改良のエコジオ工法で

賞状を持つ尾鍋社長（右から2人目）と盾を持つ竹上市長（その左）ら＝市役所で

松阪市飯高町宮前の㈱尾鍋組（尾鍋哲也代表取締役社長）と国立大学法人三重大学（津市）、㈱三重ティーエルオー（三重大学内）が第49回環境賞（国立環境研究所など主催、環境省後援）で、最高賞の環境大臣賞に次ぐ優秀賞を共同受賞した。「砕石を利用した環境にやさしい住宅用地盤改良技術（エコジオ工法）」の研究開発・普及活動が評価されたもので、4日午後3時半に尾鍋社長（60）が担当の社員2人を伴って市役所を訪れ、竹上真人市長に受賞報告を行った。

環境賞は、環境保全や環境の質の向上への貢献が期待される成果を上げた個人、法人、団体・グループなどに贈られるもので、1974（昭和49）年に創設。本年度の環境大臣賞は、大成建設㈱などの「自然と共生し地域と交流する工業団地」が受賞した。贈賞式は6月21日に東京で行われた。

住宅を建てる地盤が軟弱な場合、建てた住宅が傾かないよう地盤を補強するのが地盤改良で、新築住宅の2軒に1軒では行われている。

エコジオ工法は、尾鍋組と三重大学大学院生物資源学研究科の酒井俊典教授が共同開発した地盤改良技術。自然素材の「砕石（小さく砕いた自然石）」を独自技術によって柱状に硬く詰めていく。従来のセメント柱や鋼管ぐいを地中に差し込む工法と比べて、原材料の生産段階でのCO2排出量が非常に少なく、地中に残される物が自然の砕石だけという点も評価された。

CO2排出量は従来工法の20～40分の1

1棟当たりの使用材料の生産で排出されるCO2の量は、セメントや鋼管ぐいの20～40分の1程度という。同社では「2030年までにエコジオ工法の年間施工数6万件（現在は約4500件）を目指すことで地球環境の保全に貢献していきたい」とする。現在は全国の住宅の地盤改良工事（約20万件）の約2%のシェアだが、6万件の目標が達成されればシェアは約30%になるという。

尾鍋社長は「環境保全に役立っていると評価された。これからも持続可能な社会、脱炭素社会の実現に向けて貢献していきたい」「エコジオ工法によって環境の問題と、土地の価値の問題、この二つを解決できる」と述べた。

竹上市長は「松阪の企業が環境に対してのさまざまな評価を頂いて、優秀賞を受けたということはすごく喜ばしい。しかも他の受賞者は大企業だらけで、そこへ地元の中小企業が三重大学と産学連携でもってベンチャーとして大成功した点でもめでたい。環境に良くて経済的にも成り立ち、きちんと両方成功されているところに意義がある。事業を広げることによって環境に貢献してほしい」とエールを送った。

同工法は2010（平成22）年に実用化。現在までに全国の施工代理店60事業所によって約2万5千件の地盤改良工事が行われている。